

令和7年度 第4回 学校運営協議会 議事録

1 日時・会場

- ・日時： 令和8年2月18日(水) 10:00～12:00
- ・会場： 静岡県立沼津特別支援学校 愛鷹分校 ミーティングルーム

2 出席者

- ・委員： 福田和男（委員長）、鈴木隆臣（副委員長）、駒形英史、越膳徹、築紫典子
- ・学校側： 青木暁乃（校長）、植松隆洋（副校長）、瀬戸純代（学部主事）、山地康代（副主事）、米山朋子（進路指導課長）、生徒（ドリームプロジェクト発表者）

3 議事概要

(1) 校長挨拶および学校経営計画の評価方針

- ・校長からインフルエンザの蔓延状況や、今年度のまとめに向けた挨拶がなされた。
- ・愛鷹分校の評価は、数値（%）ではなく、具体的な事実に基づき「どのような状態であったか」という成果目標（意義目標）を重視する。関係者全員でコンセンサスを取り、総合的に判断する手法を試みていることが説明された。

(2) 令和7年度 学校経営計画の自己評価報告

学校側から安全・専門・連携・チームの領域に沿った自己評価が報告された。

- ・安全（評価：B）： 人権教育の継続、および防災訓練の実施。不測の事態（生徒の飛び出し等）にもマニュアルに基づき迅速に対応した。
- ・専門（評価：B）： 自立活動の実践。少人数グループで生徒のニーズに合わせた学習を展開したが、年度当初のニーズ把握にさらなる改善の余地がある。
- ・連携（評価：A）： Instagramによる発信強化。沼津城北高校との交流（豚汁作りやカップラーメン開発）や、作業学習の縦割り化により成果を上げた。
- ・チーム（評価：B）： ICT（Teams）活用によるペーパーレス化と会議短縮に成功。一方で、一部の教員の業務負担の偏りが課題として残る。

(3) 委員による評価および意見交換

- ・鈴木委員： 自立活動の具体的な取り組み内容や、城北高校との交流が広がったきっかけについて質問があった。学校側は、城北高校の校長や教員の自発的な協力姿勢により交流が深まったと回答した。
- ・駒形委員： 教職員の熱量と誠実さを高く評価。地域企業との連携が進んでおり、全項目「A」評価に値すると述べた。
- ・越膳委員： 災害時以外の安全管理（プライバシーや責任の所在）の明確化を提案。

城北高校との交流において、個々の障害特性の情報をどこまで共有すべきかが継続の鍵になると指摘した。

- ・ **築紫委員**：避難訓練について、家庭で一人である時を想定した「リアルな訓練」の必要性を提案。作業学習の縦割り化が社会性の向上に繋がっていると評価した。

(4) ドリーム・プロジェクト報告

- ・ 生徒代表より、地域企業「一番亭（西原グループ）」の協力を得て実施した「世界に一つだけのカップラーメン作り」の報告があった。
- ・ **完成品**：「抹茶塩味（3年1組）」と「桜エビ塩味（3年2組）」の2種類。大学での発表を通じ、生徒は大きな自信を得たことが語られた。

(5) 来年度の方向性と熟議

- ・ **地域連携の深化**：学校だよりの発行、保護者のワーク地域先見学、企業向け見学会の実施（40名超が参加）などの成果が共有された。
- ・ **次年度の経営計画案**：「自立活動の充実」「自己理解・選択・決定」を柱に、ICTの更なる活用や地域貢献の可視化を進める。
- ・ **第2回協議会の持ち方提案**：保護者の理解を深めるため、**パネルディスカッション形式**（企業、地域代表、学校による発表と質疑応答）の実施案が提示された。

4 まとめ

- ・ 福田委員長より、学校運営には「勇気ある引き算（事業の見直し）」も必要であり、教員の働き方改革とのバランスを考慮すべきとの助言があった。
- ・ 青木校長は、生徒が体験を通じて「自己理解・自己決定」を深めるための「出会い（地域・企業資源）」の重要性を改めて強調し、会議を締めくくった。